



藤枝市中ノ合 26-1
 医療法人社団 やしまかい 八洲会
 誠和藤枝病院
 <054> 638-3111 (代)

診療時間
 月～金
 午前 9:00～午後 5:00
 土曜日
 午前 9:00～正午 12:00

『医療制度改革とボランティア』

誠和藤枝病院院長 浅川 建史

先人の献身的な努力で達成された世界最高の健康長寿国日本の、誰でも生涯に亘って保障された最高水準の医療システムは、今変革期に立っています。先日の医療構造改革推進本部の報告書では、病院や一般開業医の役割を分担し、効率を重視した新しい医療システムが提言されました。すでに新設されている在宅療養支援診療所は、費用のかかる、療養病床を含めた入院診療の削減を目指すものです。しかし、手薄になる医療や介護サービスは当然、医療従事者や家族や地域の無償のボランティアで充填するしかありません。日本の八百兆円を越す債務は、赤ん坊まで入れた人口一人当たり六百万円以上の借金になりました。医療崩壊の英国の例を出すまでもなく、財政優先の医療制度改革には、様々な議論があります。何と言われようと、厚労省は医療費と介護給付費の削減を、本気で推し進め

るつもりの方です。国民一人一人は自己責任で『老病死』に備えることを要求されているのです。このような財政優先の医療改革は、高齢者や身障者など弱い立場の人たちに最初にしわ寄せが行くことを忘れてはいけません。『ない袖は振れない』と言っても、私たちは何から切り捨てていけばいいのでしょうか。

政府は、財政難から個人や企業の無償のボランティアに期待しています。だからといって、筆者は『ボランティア』の精神や必要性を否定するものではありません。社会学者や教育学者は、少年犯罪の低年齢化など、戦後の『個人重視』の行き詰まりを以前より指摘し、『社会重視』を見直し、見返りを直接求めない社会への貢献（ボランティア）の必要性を指摘しています。しかし、昔の家族の絆や、町内会のような地域の絆は、世代や個人によって、大きな意識格差があることを認めなければいけません。建前や一時的な感情では済まないのです。

『自分でできることを自発的にやる』ことがボランティアの原則の一つのようです。私たちは、仕事としての医療や介護に対して、プロとしての自負心を持つことは大切なことですが、患者や家族と接する時、カルテやレセプトに載らない相手への思いやり、『気持ちの上でのボランティア』の心を持ちましょう。決して相手に対する施しではなく、自分自身の生き方に関わる問題として考えましょう。私たちは、毎日の仕事の中で、いつでも無償の社会奉仕に参加できるわけですから、幸せな立場にいると思っていられるかもしれません。

新年度に向けて

看護師長 青木 美都

この院内報が出る頃は、梅雨の時期だと思えますが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか。雨が降り続き、日照時間が少ないと気分も沈みがちとなり体調も崩しやすいやうな時期にもなります。又、食中毒の発生が、手洗いを励行し、体調に



気をつけていきましょう。

四月から新しく就職された方や転職等により、新しい職場に移られた方などは仕事にも慣れてきた頃と思います。私もはいなん吉田病院より当院へ再び転勤となりました。

現在、看護業務基準の見直しを行なっていますが、看護部門の理念として「病める人を差別することなく人間としての尊厳と権利を尊重し奉仕する」というものがあります。この理念に基づき、初心を忘れず、看護・介護を実践し、患者様・家族様が安心してできる病院となる様努力していきたいと思えます。

感染対策委員会

看護主任 和田 貞子

感染対策委員会は、毎月第一火曜日に行っています。主に各病棟の主任から、先月の感染症者の人数や発熱者の有無の報告、感染に関する問題があれば検討していきます。



現在、発症者はいませんが、MRSAなどの既往歴のある患者様はいらっしゃいます。「患者様につさない。又、職員もうつらない。」を目標に、院内勉強会などで感染対策の基本である、手洗いや消毒の実践や勉強、又新人ヘルパーや他の職員に対しても『感染とは。』と言う所から講義して、病院全体で感染予防に努めていきたいと思えます。

今後とも感染症に対しては、流行や新しい予防対策が出てきます。

褥瘡対策委員会

看護主任 鈴木 明美

当院では月に一回第二火曜日に、医師・看護師・介護・事務・理学療法士・薬剤師・栄養士で構成さ

院外研修などに積極的に参加して、学んだことを職員に伝えていき、感染症の把握に努め、発生した時の迅速な対応をしていきたいと思えます。





れる褥瘡対策委員会を開催してま
す。この会では、各病棟より一ヶ
月の褥瘡状況の報告を行い、問題
点や改善策を話し合います。褥瘡
の原因としては、患者様の栄養状
態、ADLが重要となってきます。
その為まず入院時『褥瘡診療計画
書』を作成し褥瘡のすでに有る患
者様や褥瘡の危険因子の有る患者
様の評価を行ない診療計画書を作
成します。その計画に基づいて体
位交換の時間の決定や適切な予防

具の選択が行われてい
ます。

褥瘡は、治療に向け
ての適切な処置も大切
ですが、一番大切な
は褥瘡を作らない事
です。褥瘡は色々な
要因で短時間で発症
してしまいます。そ
の為日々の予防が重
要になります。委員
会等を通して職員へ
の啓蒙活動にも努力
して行きたいと思
います。

レクリエーション委員会

マッサージ師 大関 浩道

去る4月4日、患者様達と一緒
に瀬戸川金比羅山方面まで『お花
見ドライブ』に行ってきました。
日差しが眩しく感じられる程の晴
天にも恵まれ、満開の桜並木の中
をゆっくりと走りました。瀬戸川
の両岸や金比羅山の斜面が見事な
桜色に染め上がった景色に、春の
訪れを感じ心が和みました。



レクリエーション委員会では、
夏の納涼祭や秋の遠足、年末には
クリスマス会や餅つき大会、また、
近隣の幼稚園に通う子供さん達と
の交流など様々なイベントを企画
し、患者様達と一緒に楽しんでい
ます。

患者様の中には、長期間に渡り
入院生活を送らなければならぬ
方もいらっしゃいます。

患者様に少しでも季節を感じて
いただいたり、楽しい時間を過ご
していただけるよう活動してい
きたいと思ひます。御支援よろしく
お願い致します。

身体拘束ゼロ委員会

介護主任 八木 眞弓

身体拘束とは、入院患者様の容
態により、手や足をヒモ等で縛
ったり、手指の動きを妨げる手袋
(ミトン)をしたりすることをい
います。身体拘束は、生命の危険
を伴う時以外は、絶対にしては
いけない行為なのです。

そこで、我々身体拘束ゼロ委員
会は、毎月一回会議を行い、各病
棟の拘束者の状況を報告し合
います。そして、やむなく拘束さ
れている患者様に対して『いかに拘束
を外していくか』を検討します。
拘束は、ずっとし続けるものでは
ないので、外すタイミングをうま
く計り、提案していくのも委員
会の役割です。

委員だけでなく、現場のスタッ
フ間でも、十分話し合い、そして
協力しながら、身体拘束ゼロ
に向けて活動を続けていきたい
と思ひます。

『脱水について』

食生活の中で見逃しがちな水分、しっかりとれていますか？
特に高齢者の脱水は脳梗塞、心筋梗塞を引き起こす危険性が高くなる為、注意が必要です。
下記の項目であてはまると思うものがある方は要注意です。

- ① お茶など飲み物をあまり飲まない。
- ② おしっこの回数、量が減った。色が濃い。
- ③ いつもの食事を半分以上残した。
- ④ 皮膚が乾燥している。(脇の下が乾燥している)
- ⑤ ポーッとして体がだるい。微熱がよく出る。
- ⑥ 最近嘔吐、下痢をした。
- ⑦ 塩分やトイレの回数を気にして汁物、水分をとらないようにしている。

高齢者は特に、

- ア) 体に貯蓄されている水分が少ない。
- イ) 喉が渇いていると感じにくい。
- ウ) 腎機能が低下する為多くの水分が必要。
- エ) トイレの回数を気にする、水分でむせる等の理由で意識的に水分をとらない。

などの理由から脱水になりやすい状態にあります。

一日に必要な水分量は食事から 1000cc ほどとれる為、500~1000cc を飲み物で意識的にとり、脱水を予防しましょう。とりにくい方は水やお茶だけではなく、市販のイオン飲料やゼリー、プリン、アイスクリーム、果物などでも構いません。小分けにして少しずつたくさん飲む、むせる方は市販の増粘量でとろみをつけるなど、工夫してみましょう。

本格的な夏を迎える前に、水分摂取について少し気にかけてみて下さい。



管理栄養士 蒔田 香織

職 員 募 集

- | | |
|----------|--------|
| ◎正・准看護師 | ◎理学療法士 |
| ◎作業療法士 | ◎言語聴覚士 |
| ◎介護支援専門員 | ◎介護職員 |

詳しいお問い合わせは (054) 638-3111 担当 事務長



新メンバーによる院内報が発行されました。これからも楽しい紙面づくりをしていきたいと思えます。

編集後記